

乳幼児期における原因不明疾患に関する研究 報告書(昭和58年度)

主任研究者 山下文雄 久留米大学 小児科

I. 総括報告

本研究は、〔1〕成因不明の脳症（Reye症候群等）に関する研究、〔2〕川崎症に関する研究、〔3〕発達神経学的にみた自閉症の予防と治療に関する研究に分れ研究目的は表1のとうりである。

表1

I. 研究総目的

乳幼児期に発生し、その子供のその後の人生を左右するような大きな障害を残し、しかも成因不明、かつ治療や予防法も確定していない病態ほど、親はもちろん、ケアを行う側にも、不安を与えるものはない。

本研究は、そのなかでも、現在世間でもっとも関心をもたれている3疾患、(1)急性脳症（Reye症候群）、(2)川崎病、(3)自閉症の、成因と早期診断、治療法、予防法を追求し、最終的には医療者のためのガイドラインを作製することを目的とする。

各分担研究課題別に目的と計画を下記に示す。

II. 研究期間 昭和58年度4月1日～昭和59年3月31日

III. 研究事業：略稱（分担研究者名）〔正式名稱〕、実施場所

(1)急性脳症（Reye症候群）

（分担研究者 山下文雄）〔原因不明の脳症（Reye症候群等）に関する研究〕

久留米大学医学部小児科教室 〒830 福岡県久留米市旭町67

(2)川崎病（分担研究者 川崎富作）〔川崎病に関する研究〕

日本赤十字社医療センター 〒150 東京都渋谷区広尾4-1-22

(3)自閉症（分担研究者 瀬川昌也）〔発達神経学的にみた自閉症の予防と治療に関する研究〕

瀬川小児神経クリニック 〒101 東京都千代田区神田駿河台2-8

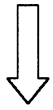
2✓

3研究とも、「原因不明疾患で、現在親を不安におとし入れ、かつ予防や治療が確立されていない」という点では共通するが、内容的にはかなりちがいが、研究内容も広範かつ多岐にわたるため、ここでは「昭和58年度の各班の研究状況がかなり満足すべきものであった」という報告にとどめる。

同様理由で、上記 I, II, III各研究班の報告書も分冊の形で、別々に作製されることになった。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



. 研究総目的

乳幼児期に発生し, その子供のその後の人生を左右するような大きな障害を残し, しかも成因不明, かつ治療や予防法も確定していない病態ほど, 親はもちろん, ケアを行う側にも, 不安を与えるものはない。

本研究は, そのなかでも, 現在世間でもっとも関心をもたれている 3 疾患, (1)急性脳症 (Reye 症候群), (2)川崎病, (3)自閉症の, 成因と早期診断, 治療法, 予防法を追求し, 最終的には医療者のためのガイドラインを作製することを目的とする。各分担研究課題別に目的と計画を下記に示す。